



拠点校の県立芦屋特別支援学校で行われている電動車いすサッカー

本県の特別支援学校では運動部活動が盛んで、さまざまな試合・競技会に多くの生徒が参加している。また、障害種別に行われていたスポーツ大会を統合した「兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会」を毎年5月に実施し、高等部生徒が素晴らしい活躍を見せ、全国障害者スポーツ大会の出場選手に選ばれる例も多い。特別支援学校の生徒は練習場所や時間など、恵まれたスポーツ環境にあるといえる。

一方、学校卒業後スポーツを楽しむ障害のある方は決して多くとはいえず、練習場所の確保にも苦労している現状があった。

そこで県福祉部局が、県立特

学校卒業後の拠点を整備、支援員も配置

別支援学校などに協力を求め、「障害者スポーツ推進拠点整備事業」を一昨年から開始した。

県障害者支援課が事業を予算化し、（公財）兵庫県障害者スポーツ協会が実務を担当して、特別支援学校14校を含む全17施設を推進拠点に指定した。施設のバリアフリー化、スポーツ用具の貸与とともに、施設を貸す学校などの負担を減らすため、各施設を担当する「障害者スポーツ推進拠点支援員」を配置した。支援員は、利用する障害者スポーツ団体と学校との連絡調整や鍵の受け取り・返却、利用中の事故対応や施設破損の点検など、施設への活動計画提出から実績報告までの責任を持ち、学校負担がほぼない状態で利用が進むよう要項等が整備されている。

昨年度は2校増え計19施設になり、利用実績は5施設で41回、利用者数920人であった。利用者から感謝の声が多く学校に届き、気軽に障害者スポーツを楽しむ環境づくりに特別支援学校が一役買っている。

（森下伊一郎・兵庫県立姫路しらさぎ特別支援学校校長）